

作成日 : 2020年11月 1日

改訂日 :

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名 : A S バレルメディア A S - A S R
 会社名 : 有限会社 秋山産業
 住所 : 〒572-0865 大阪府寝屋川市小路北町 7 番 2 9 号
 電話番号 : 072-822-6936
 緊急連絡先電話番号 : 同 上
 F A X 番号 : 072-822-6932
 メールアドレス : in fo@ ak iy am a-sangyo.jp

2. 危険有害性の要約

[GHS 分類]

健康有害性 : 急性毒性(経口) 区分外
 : 皮膚腐食性又は皮膚刺激性 区分外
 : 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分外
 : 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分 3(気道刺激性)
 : 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分 1

環境有害性 : 水生環境有害性(急性) 区分外

その他の危険有害性の項目については、「分類できない」か「分類対象外」のいずれかです。

[GHSラベル要素]

絵表示又はシンボル



注意喚起語

: 危険

危険有害性情報

: (H335) 呼吸器への刺激のおそれ
(H372) 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害 (肺) (吸入)

注意書き

安全対策

: (P260) 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
(P264) 取扱い後はよく手などを洗うこと。
(P270) この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
(P271) 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

- 応急措置 : (P304+P340) 吸入した場合:被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
(P312) 気分が悪い時は医師に連絡すること。
- 保管 : (P403+P233) 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
(P405) 施錠して保管すること。
- 廃棄 : (P501) 内容物及び容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

名前	CAS 番号	濃度	化学式等	官報公示整理番号 (化審法) (安衛法)	
酸化アルミニウム	1344-28-1	>= 97.5%	Al ₂ O ₃	(1)-23	既存化学物質
シリカ(非晶質)	7631-86-9	<= 1%	SiO ₂	(1)-548	既存化学物質
酸化マグネシウム	1309-48-4	<= 0.5%	MgO	(1)-465	既存化学物質
酸化鉄	1309-37-1	<= 0.5%	Fe ₂ O ₃	(1)-357	既存化学物質
酸化ナトリウム	1313-59-3	<= 0.5%	Na ₂ O	(1)-495	既存化学物質

GHS 分類に寄与する不純物及び安定化添加物 : 上記主要成分の他に、結晶質シリカを微量含む。
(結晶質シリカ <0.1%)

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
直ちに医師の診察を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに多量の水ですすぎ、医師の診察を受ける。
- 眼に入った場合 : まぶたの内側も含め、多量の水で直ちに洗浄する(20 分間以上)。
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
過度のまばたき、痛み、涙、発赤が続く場合は、直ちに医師の診察を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 水で口をすすがせ、無理に吐かせない。医師の診断を受けさせる

5. 火災時の措置

消火剤

- 適した消火剤 : 特に限定されない
- 使ってはならない消火剤 : 情報なし

消火活動を行う上での注意事項

- 特有の消火方法 : 包装材を除き不燃性かつ安定
特別な注意事項なし

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- 一般的措置 : 適切な保護衣、手袋、眼または顔面用保護具を着用する。

- 環境に対する注意事項 : 粉じんの発生を避ける。
排水溝や河川に流さない
- 封じ込め及び浄化方法及び機材
封じ込め方法 : 真空掃除機で回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
- 安全取扱注意事項 : エアロゾル、粉塵が発生しないように取扱う。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
接触、吸入又は飲み込まないこと。
粉じん、ヒュームを吸入しない。
製品取扱い後には必ず手を洗う。
- 局所排気・全体換気 : 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

保管

- 安全な保管条件 : 乾燥した安全な場所に保管し、湿気を避ける。

8. ばく露防止及び保護措置

製品の管理濃度、許容濃度

- 管理濃度 : 1.37 mg/m³ (遊離ケイ酸 1%の場合)
- 許容濃度 : 設定されていない

酸化アルミニウムの管理濃度、許容濃度

- 管理濃度 : 3.0mg/m³
- 許容濃度
- 日本産業衛生学会 : 【粉塵許容濃度】(第1種粉塵) 吸入性粉塵 0.5mg/m³ 総粉塵 2mg/m³
- ACGIH : TLV-TWA (時間加重平均値) 金属アルミニウムとその化合物 1mg/m³

シリカ(非晶質)の管理濃度、許容濃度

- 管理濃度 : 設定されていない
- 許容濃度
- 日本産業衛生学会 : 【粉塵許容濃度】(第三種粉塵) 吸入性粉塵 2mg/m³ 総粉塵 8mg/m³
- ACGIH : 設定されていない

酸化マグネシウムの管理濃度、許容濃度

- 管理濃度 : 設定されていない。
- 許容濃度
- 日本産業衛生学会 : 設定されていない。
- ACGIH : 10 mg/m³ TWA 10 mg/m³ (I), STEL -

酸化鉄の管理濃度、許容濃度

- 管理濃度 : 3.0mg/m³
- 許容濃度
- 日本産業衛生学会 : 【粉塵許容濃度】(第2種粉塵) 吸入性粉塵 1mg/m³ 総粉塵 4mg/m³
- ACGIH : TWA 5 mg/m³ (R), STEL -

酸化ナトリウムの管理濃度、許容濃度

管理濃度 : 設定されていない。

許容濃度

日本産業衛生学会 : 設定されていない。

ACGIH : 設定されていない。

設備対策 : 取扱いについてはできるだけ密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用する。

保護具

呼吸用保護具 : 認可を受けた防塵マスク

手の保護具 : 適切な保護手袋

眼の保護具 : 粉じんが発生した場合:保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具 : 適切な保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観 : 粒体

色 : 白色

臭い : 無臭

pH : 該当しない

融点 : 2053 °C

沸点 : 3000 °C

引火点 : データなし

爆発範囲(上限、下限)(g/m³) : データなし

蒸気圧 : データなし

比重 : 3.98 (20°C)

溶解度 : 水:不溶、酸:不溶、アルカリ:極微量溶解する。その他の溶媒:データなし

自然発火温度 : データなし

燃焼性(固体、気体) : 不燃性

10. 安定性及び反応性

化学的安定性 : 大気中で安定

危険有害反応可能性 : 利用可能な情報はない

避けるべき条件 : 利用可能な情報はない

混触危険物質 : 利用可能な情報はない

危険有害な分解生成物 : 利用可能な情報はない

11. 有害性情報

製品の有害性情報

混合物の有害性情報 : 全ての項目について情報なし

酸化アルミニウムの有害性情報

急性毒性(経口) : ・ラット LD50 >2000mg/kg (ECHA)

急性毒性(吸入:粉塵) : ・ラット LC50(4hr) > 2.3mg/L (ECHA)

皮膚腐食性／皮膚刺激性	： ・ウサギを用いた皮膚刺激性試験で刺激性なしであった。(ECHA)
眼に対する重篤な損傷性	： ・ウサギを用いた眼刺激性試験で刺激性なしであった。(ECHA)
／眼刺激性	
皮膚感作性	： ・モルモットを用いた皮膚感作性試験で陰性であった。(ECHA)
呼吸器感作性	： ・マウスに気管内投与した試験で、肺にアレルギー性炎症作用を生じなかった。(ECHA)
生殖細胞変異原性	： ・ラットに経口投与(50～200 μ m 品を適用)した in vivo 小核試験で陰性であった。(ECHA) ・ラットに経口投与(30、40nm 品を適用)した in vivo 小核試験及び染色体異常試験で陽性であった。(ECHA) (水酸化アルミニウムの情報) ・マウスリンフォーマ試験(OECD TG476 に準拠)で代謝活性化の有無にかかわらず陰性であった。(ECHA)
発がん性	： ・ACGIH の発がん性分類:グループ 4(ヒト発がん性に分類できない物質) ・ラットに酸化アルミニウム繊維を 86 週間吸入ばく露した試験で、線維症や腫瘍形成はみられなかった。(ECHA、ACGIH) ・ラットに胸腔内投与した試験で、繊維(ウィスカ)では胸膜肉腫発生率の増加がみられたが、非繊維状では腫瘍形成はみられなかった。(DFGMAK、ACGIH) ・ラットに 1 年間吸入ばく露した試験(OECD TG413 に準拠)で、がん腫の増加はみられなかった。NOAEC は 50mg/m ³ 。(ECHA)
生殖毒性	： (クエン酸アルミニウムの情報) ・ラットに飲水投与した一世代生殖毒性試験で、親の 1075mg/kg/日以上の群で尿路の閉塞等がみられ、児の 1075mg/kg/日以上の群で四肢の握力低下、3225mg/kg/日群で性成熟の遅延がみられた。親毒性及び生殖毒性の NOAEL は 322.5mg/kg/日 (30mg_Al/kg/日)。(ECHA) (ポリ塩化アルミニウムの情報) ・ラットに飲水投与した反復投与毒性／生殖発生毒性併合試験で、生殖発生毒性はみられなかった。NOAEL は 1000mg/kg/日 (濃度: 180mg_Al/kg)。(ECHA) (水酸化アルミニウムの情報) ・ラットに経口投与した出生前発生毒性試験で、親毒性、胚毒性及び催奇形性はみられなかった。NOAEL は 266mg/kg/日。(ECHA)
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	： ・ラットに経口投与した試験(用量:10000mg/kg)で、剖検も含め毒性影響はみられなかった。(ECHA) ・ラットに 4 時間吸入ばく露(濃度:2.3mg/L)した試験で、一般状態では閉眼、鼻や口周辺の濡れ等がみられた。剖検では 10 匹中 1 匹にのみ肺の暗色化等がみられた。(ECHA) ・ラットに気管内投与(用量:50mg)した試験で、軽度の炎症応答がみられた。(ECHA) ・高濃度の粉塵を短期間に吸入した場合、眼や上気道を刺激することがある。(ICSC) (オキシ水酸化アルミニウムの情報) ・ラットに凝集ナノサイズの粒子を 10 日間吸入ばく露し、BALF 洗浄液等を確認した試験で、炎症反応は 3mg/m ³ では見られなかったが、28mg/m ³ で有意であった。(ECHA)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	： ・25 年間、酸化アルミニウムに暴露された労働者で、肺の間質に線維化がみられた。(EHC)

	・アルミニウム製造と製陶業で酸化アルミニウム粉じんに暴露された作業場で、塵肺はみられなかった。(ACGIH) ・ラットやウサギに 28 週間吸入暴露した試験で、気管または気管支の構造的または機能的変化、慢性肺水腫、死亡がみられた。(RTECS) ・ラットに 6 か月間吸入ばく露した試験(OECD TG413 に準拠)で、肺に有意な影響はみられなかった。NOAEC は 70mg/m³。(ECHA) ・アルミナ精錬所の従業員を対象とした調査で、アルカリミストを伴う高濃度(1.0 mg/m³ 超)でのばく露では喘鳴及び鼻炎の増加がみられたが、肺機能への障害はみられなかった。(ECHA)
吸引性呼吸器有害性	: 情報なし
シリカ(非晶質)の有害性情報	
急性毒性(経口)	: ・ラット LD50 >3300mg/kg、>5000mg/kg(SIDS)
急性毒性(経皮)	: ・ウサギ LD50 >2000mg/kg (SIDS)
急性毒性(吸入:粉塵)	: ・ラット LC50 >2.08mg/L/4hr (SIDS)
皮膚腐食性／皮膚刺激性	: ・ウサギを用いた皮膚刺激性試験で、刺激性はみられなかった。(SIDS)
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	: ・ウサギを用いた眼刺激性試験で、刺激性はみられなかった。(SIDS)
皮膚感作性	: ・モルモットを用いた皮膚感作性試験(GPMT)で、感作性はみられなかった。(IUCLID)
呼吸器感作性	: 情報なし
生殖細胞変異原性	: ・ラットに単回もしくは反復投与し骨髄を観察した in vivo 染色体異常試験や優性致死試験で陰性であった。(SIDS) ・チャイニーズハムスター卵巣細胞を用いた染色体異常試験や HGPRT 遺伝子突然変異試験で陰性であった。(SIDS)
発がん性	: ・IARC の発がん性分類:グループ 3(ヒトに対する発がん性については分類することができない) ・ラットに 103 週間、マウスに 93 週間混餌投与した試験で、腫瘍発生率に差はみられなかった。(SIDS) ・マウスに沈降シリカを 1 年間吸入暴露し、一生観察した試験で、生存率、肺腫瘍発生率等に差がみられた。(HSDB)
生殖毒性	: ・ラットに 500 mg/kg で交配前 4.5 か月、交配後 6 か月間混餌投与した 1 世代繁殖毒性試験で、生殖影響はみられなかった。(SIDS) ・ラット、マウス、ウサギ、ハムスターを用いた試験で、母動物毒性、胎児毒性および発生毒性はみられなかった。(SIDS)
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: ラットに 1 時間吸入暴露(濃度:2.2mg/L)した試験で、刺激性と呼吸困難がみられた。(IUCLID)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: ・沈降性非晶質シリカ製造及び取扱い作業場で珪肺性やその他の肺疾患はみられなかった。(SIDS) ・ラットに 13 週間吸入暴露した試験で、炎症反応等がみられた。1.3mg/m ³ 群では軽度の変化で速やかに回復した。限局性間質性線維症は 5.9mg/m ³ 以上の群で暴露期間終了後にみられた。(SIDS)
吸引性呼吸器有害性	: 情報なし
酸化マグネシウムの有害性情報	
急性毒性(経口)	: 情報なし
急性毒性(経皮)	: 情報なし
急性毒性(吸入:粉塵)	: 情報なし
皮膚腐食性／皮膚刺激性	: ・ヒトでわずかに刺激性がみられた。(IUCLID)

眼に対する重篤な損傷性 ／眼刺激性	: ・ヒトでわずかに刺激性がみられた。(IUCLID) ・職業ばく露された作業者に関する調査で、眼および鼻にわずかな刺激性がみられた。(ACGIH、HSDB)
皮膚感作性	: 情報なし
呼吸器感作性	: 情報なし
生殖細胞変異原性	: ・サルモネラ菌を用いたエームス試験で陰性であった。(CCRIS、ACGIH、DFGMAK)
発がん性	: ・ACGIH の発がん性分類:A4(ヒトに対して発がん性物質として分類できない物質)
生殖毒性	: ・妊娠中のリスクグループ C (MAK 値や BAT 値においては胚や児に対して障害を恐れる理由はない)(DFGMAK) ・酸化マグネシウムの発育毒性に関する研究はない。酸化マグネシウムは難溶性の粉じんであるため、MAK 値 0.3 mg/m ³ の範囲内では催奇形性を懸念する理由はない。(DFGMAK)
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: ・ボランティア 6 人に酸化マグネシウムヒュームにばく露(最大濃度、時間:230mg/m ³ 、45 分)した試験で、肺機能、血球数、多形核白血球、BAL(気管支肺胞洗浄液)に変化は見られず炎症反応は確認できなかった。(DFGMAK、ACGIH) ・ボランティア 4 人に 410~580mg/m ³ の用量で 1~9 分間ヒュームばく露した試験で、発熱および白血球増加症が認められた。(ACGIH、HSDB) ・短期の吸入ばく露により、機械的刺激を引き起こすおそれがある。(ICSC) ・ウシに混餌投与した試験で、餌中 4%群で顕著に下痢がみられた。(HSDB)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: ・ウシに 130 日間混餌投与した試験で、餌中 2.5%以上の群で重度の下痢、嗜眠がみられた。(HSDB) ・職業ばく露された作業者で、目および鼻にわずかな刺激性が認められ、結膜炎、鼻カタル、唾液の変色、発熱の症状が認められた。(ACGIH、HSDB) ・球状黒鉛鑄造工場に勤務する作業者を対象とした疫学的調査で、酸化マグネシウムに高濃度でばく露された作業者に多汗、発熱、咳が認められ、1 名は X 線写真解析で、肺実質への明確な影響がみられた。(IUCLID) ・反復または長期の粉じんばく露により、肺が冒されるおそれがある。(ICSC)
吸引性呼吸器有害性	: 情報なし
酸化鉄の有害性情報	
急性毒性(経口)	: ・ラット LD50 >10000mg/kg、>2000mg/kg (ECHA)
急性毒性(吸入:粉塵)	: ・ラット LC50(2hr) 24.2mg/m ³ (ECHA) ・ラット LC50(4hr) >5.05mg/m ³ (ナノの情報)(ECHA)
皮膚腐食性／皮膚刺激性	: ・ウサギを用いた皮膚刺激性試験で刺激性なしであった(ナノの情報)。(ECHA) ・ラットを用いた試験で Fe ₂ O ₃ などの鉄顔料は刺激性なしであった。(DFGMAK) ・ヒトに対して皮膚の薬傷(中等度の刺激性)を起こすおそれがある。(IUCLID)
眼に対する重篤な損傷性 ／眼刺激性	: ・ウサギを用いた眼刺激性試験で刺激性なしであった(ナノの情報)。(ECHA)

	・ラットを用いた試験で Fe_2O_3 などの鉄顔料は高濃度で眼の粘膜に対して(機械的)刺激がある。(DFGMAK) ・ヒトに対して眼の損傷を起こすおそれがあり、長時間または反復使用で鉄の不可逆的な定着をおこすおそれがある。(IUCLID)
皮膚感作性	: ・モルモットを用いた皮膚感作性試験(Maurer optimization test)で感作性は認められなかった。(ECHA)
呼吸器感作性	: 情報なし
生殖細胞変異原性	: ・ラットに気管内投与した DNA 切断試験(コメット法)で陰性であった。(ECHA)
	・ラットに経口投与し骨髄細胞を観察した in vivo 小核試験で陰性であった。(ECHA)
	・サルモネラ菌を用いたエームス試験で陰性であった。(ECHA)
発がん性	: ・IARC の発がん性分類:グループ 3(ヒトに対して発がん性については分類できない)
	・ACGIH の発がん性分類:A4(ヒト発がん性物質として分類できない物質)
	・マウス、ハムスター、モルモットでは気管内投与または吸入暴露による発がん性についての決定的な証拠は得られていない。(IARC)
生殖毒性	: 情報なし
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: ・ラットに 4 時間吸入ばく露(濃度:5.05mg/m ³)した試験で、剖検も含めばく露による有害影響はみられなかった。(ナノの情報)(ECHA)
	・ラットに 50mg/m ³ 、12 時間吸入ばく露した試験で興奮、下痢等がみられた。(RTECS)
	・吸入ばく露により、胸部圧迫感、咳等を伴う金属熱を起こすおそれがある。(IUCLID)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: ・肺の鉄沈着症は高レベル(10~700mg/m ³)の長期間ばく露でみられるが、肺機能の物理的障害に関連していなかった。(ACGIH)
	・ヒトや動物の事例では、酸化鉄の肺へのばく露は軽度の炎症反応を引き起こすが、肺線維症の証拠は得られなかったことが実証されている。(ACGIH)
	・ラットに 28 日間吸入ばく露した試験で、210.2mg/m ³ で肺の局所炎症性浸潤や細気管支肺胞の過形成がみられた(ナノの情報)。(ECHA)
吸引性呼吸器有害性	: 情報なし
酸化ナトリウムの有害性情報	
急性毒性(経口)	: 情報なし
急性毒性(経皮)	: 情報なし
急性毒性(吸入:粉塵)	: 情報なし
皮膚腐食性/皮膚刺激性	: ・粉じんは皮膚の水分と反応し水酸化ナトリウムとなり、腐食性を示すおそれがある。(MSDS-OHS)
眼に対する重篤な損傷性 /眼刺激性	: ・粉じんは眼の水分と反応し水酸化ナトリウムとなり、腐食性を示すおそれがある。(MSDS-OHS)
皮膚感作性	: 情報なし
呼吸器感作性	: 情報なし
生殖細胞変異原性	: 情報なし
発がん性	: 情報なし
生殖毒性	: 情報なし
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: ・蒸気または粉塵の吸引により、鼻、口、喉、上気道の重度の刺激性を示すおそれがある。(MSDS-OHS)

- ・高濃度で吸入すると、呼吸困難、チアノーゼ等の徴候を示した後、肺水腫を引き起こすおそれがある。(MSDS-OHS)
- ・飲み込むと喉頭蓋の浮腫を含む重度の薬傷や吐き気、下痢をおこすおそれがある。(MSDS-OHS)
- 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : ・吸入暴露により、口、気管支、胃腸に潰瘍をおこすおそれがある。(MSDS-OHS)
- 吸引性呼吸器有害性 : 情報なし

12. 環境影響情報

製品の環境影響情報

- 混合物の環境影響情報 : 全ての項目について情報なし

酸化アルミニウムの環境影響情報

- 生態毒性 : ・魚類(ブラウントラウト) NOEC(96hr) >100mg/L (IUCLID)
・甲殻類(オオミジンコ) NOEC(48hr) >100mg/L (IUCLID)
・藻類(セレナストラム) NOEC(72hr) >100mg/L (IUCLID)
- 残留性/分解性 : 情報なし
- 生体蓄積性 : 情報なし
- 土壤中の移動性 : 情報なし
- オゾン層への有害性 : 情報なし

シリカ(非晶質)の環境影響情報

- 生態毒性 : ・魚類(コイ) LC50(72hr) >10000 mg/L (HSDB)
・魚類(ゼブラフィッシュ) LC0(96hr) 10000 mg/L (SIDS)
・甲殻類(オオミジンコ) EC50(24hr) >10000 mg/L (SIDS)
・藻類 NOEC(72hr) 10000mg/L(SIDS)、60mg/L(IUCLID)
- 残留性/分解性 : 情報なし
- 生体蓄積性 : 情報なし
- 土壤中の移動性 : 情報なし
- オゾン層への有害性 : 情報なし

酸化マグネシウムの環境影響情報

- 環境影響情報 : 全ての項目について情報なし

酸化鉄の環境影響情報

- 生態毒性 : ・魚類(ゼブラフィッシュ) LC0(96hr) $\geq 50000\text{mg/L}$ 、 $\geq 10000\text{mg/L}$ (ECHA)
・甲殻類(オオミジンコ) EC50(48hr) >100mg/L (ECHA)
- 残留性/分解性 : 情報なし
- 生体蓄積性 : 情報なし
- 土壤中の移動性 : 情報なし
- オゾン層への有害性 : 情報なし

酸化ナトリウムの環境影響情報

- 環境影響情報 : 全ての項目について情報なし

13. 廃棄上の注意

- 推奨製品/梱包処分 : 排水溝や河川へ廃棄してはならない。
- 廃棄方法 : 必ず適用法令に準拠して廃棄する。

- 残余廃棄物 : 内容物／容器を(国／県都道府県／市町村の規則に従って)廃棄すること。
- 地域の廃棄規則 : 管轄当局の規制に準拠して廃棄する

14. 輸送上の注意

- 国際規制
- 国連番号 : 該当なし
- 国内規制
- 輸送上の注意 : 「適用法令」を参考に、関連法令等の規則に従い、輸送すること。
- その他の情報
- 輸送又は輸送手段に関する
特別の安全対策 : 輸送に際しては容器に漏れのないことを確認し、転倒・落下・破損がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。

15. 適用法令

- 化学物質排出把握管理促進法
(PRTR法) : 通知対象物質ではありません
- 労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9)
酸化アルミニウム
名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)
酸化アルミニウム
- 毒物及び劇物取締法 : 通知対象物質ではありません
- 水質汚濁防止法 : 指定物質(法第2条第4項、施行令第3条の3)
酸化アルミニウム
- 海洋汚染防止法 : 有害でない物質(施行令別表第1の2)
シリカ(非晶質)
- 水道法 : 有害物質(法第4条第2項)、水質基準(平15省令101号)
酸化ナトリウム
酸化アルミニウム
- じん肺法 : 法第2条、施行規則第2条別表粉じん作業
酸化アルミニウム
シリカ(非晶質)

16. その他の情報

記載内容のお問い合わせ先

会社名	有限会社 秋山産業
住所	〒572-0865 大阪府寝屋川市小路北町7番29号
電話番号	072-822-6936
FAX番号	072-822-6932

「記載内容のうち、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報・データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅したわけではありませんので、取扱いには十分注意してください。」